

中津川馬籠地域の 地域活性化の取り組み

中京学院大学
須栗 大

まずは自己紹介

- ・須栗 大(45歳)(すぐり まさる)
- ・本名は紺野 大
- ・中津川市在住
- ・8歳の息子
- ・大学では旧姓のまま仕事をしている
- ・専門は経営戦略
- ・最近では地域との関わりの中で観光や地域活性化についての研究が主な研究領域
- ・硬式野球部が話題の中京学院大学 教授

地域との関わり

- ・大学に入って、中津川市民となり約15年が経った
- ・そのなかで、様々な地域に仕事として住民として関わらせていただく事ができた
- ・特に馬籠地域とは2006年から継続して関わらせていただいている

本題に入る前に
少しグループワークを



馬籠地域とは

馬體管地

- ・ 中山道の宿場町
- ・ 長野県旧山口村
- ・ 昭和の大合併で神坂村が馬籠地域と神坂地域で分断し、神坂地域は岐阜県中津川市に合併。
- ・ 馬籠地域は山口地域と一緒に長野県山口村として残る
- ・ 2005年、平成の大合併で全国で唯一の越県合併



- ・2005年 馬籠こへー祭り来場者アンケート
- ・2006年 馬籠地域住民アンケート
- ・2007年 馬籠ルネサンス行動計画
- ・2010年 秋の馬籠宿場祭り第1回開催
- ・2013年 秋の馬籠宿場祭り第3回開催
- ・2015年 馬籠地域住民アンケート実施



馬籠地域住民アンケート

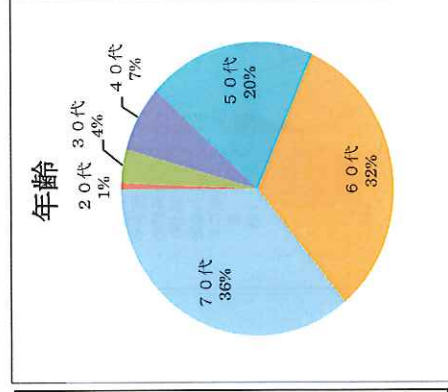
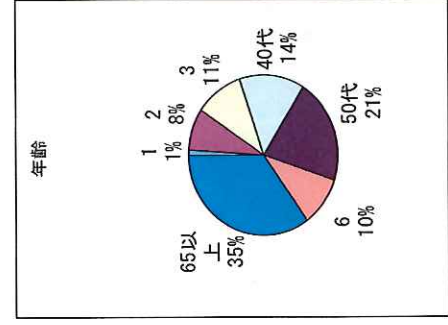
1. 調査の概要

- 調査区域：馬籠地域全域
- 調査対象：馬籠地域全世帯
- 調査時期：平成 27 年5月
- 配布数：約250 票
- 回収数：140 票
- 回収率：56.0%

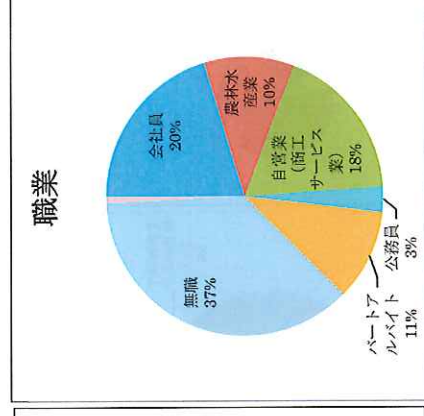
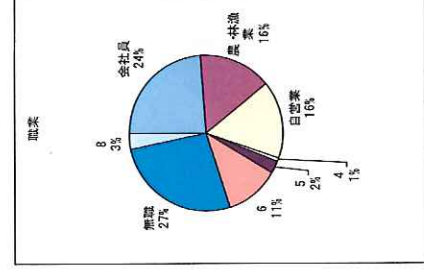
資料の見方

- 左側が合併後すぐ2006年に行ったアンケート結果
- 右側が合併10年の昨年2015年に行ったアンケート結果
- 今回は単純集計のみ
- プライバシーの問題もあるため定性的なアンケート内容については省いてある

- 【年齢】 1. 10 歳代 2. 20 歳代 3. 30 歳代 4. 40 歳代 5. 50 歳代 6. 60～70歳 7. 70歳以上



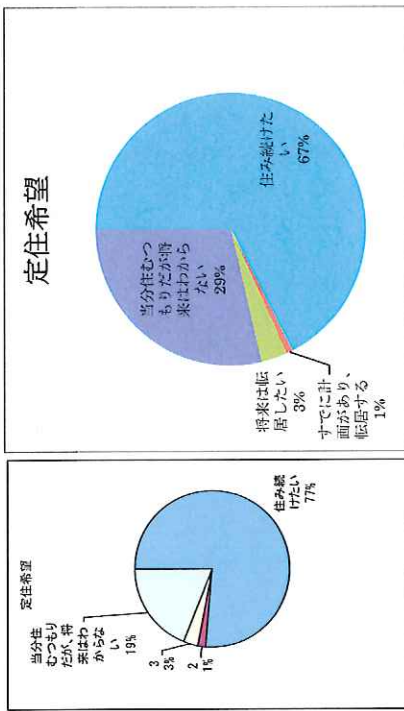
- 【職業】 1. 会社員 2. 農・林・漁業 3. 自営業 (商・工・サービス業など) 4. 自由業 (医師・弁護士など) 5. 公務員 6. パート、アルバイト 7. 無職 8. その他 ()



住環境について

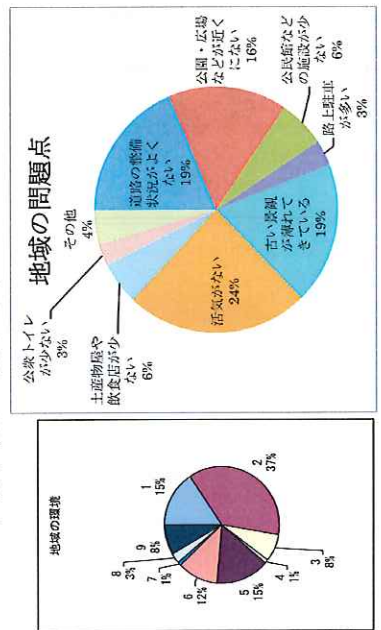
問7 現在のお住まいに今後も住み続けたいと思いますか。〔〇は1つ〕

1. 住み続けたい
- 2.すでに計画があり、転居する 問9へ
3. 将来は転居したい
4. 当分住むつもりだが、将来はわからない 問10へ



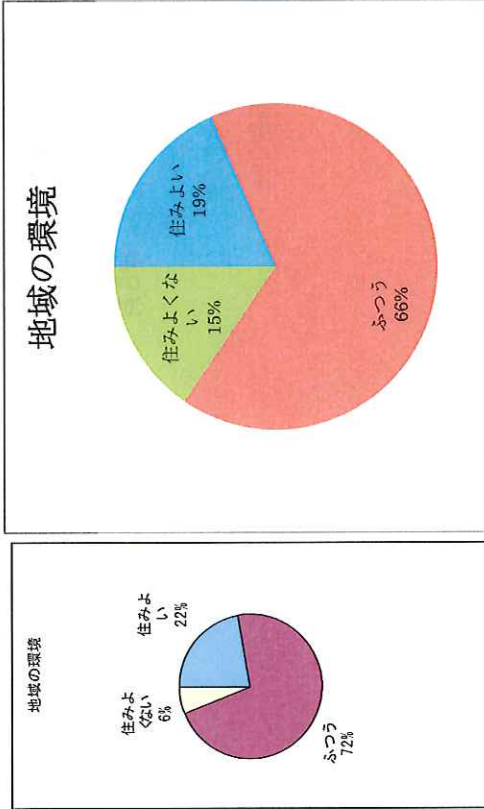
問12 地域の環境について、感じている問題点は何ですか。〔〇はいくつでも〕

1. 道路の整備状況がよくない
2. 公園・広場などが近くにない
3. 公民館などの施設が少ない
4. 路上駐車がが多い
5. 古い景観が薄れてきている
6. 活気がない
7. 土産物屋や飲食店が少ない
8. 公衆トイレが少ない
9. その他〔ご自由にお書きください〕



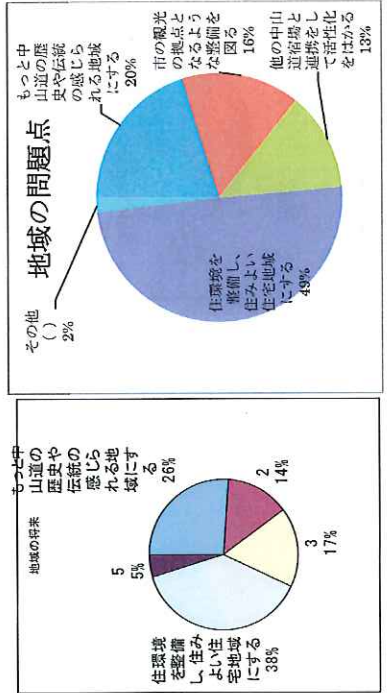
問11 現在の地域の環境は住みよいと思いますか。〔〇は1つ〕

1. 住みよい 2. ふつう 3. 住みよくない



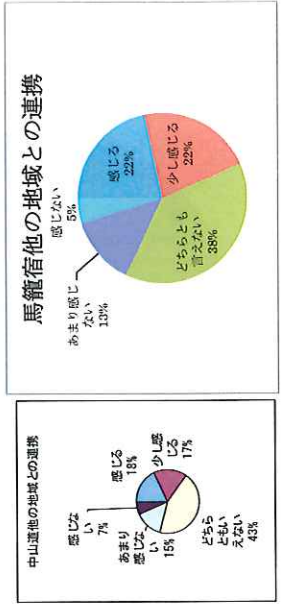
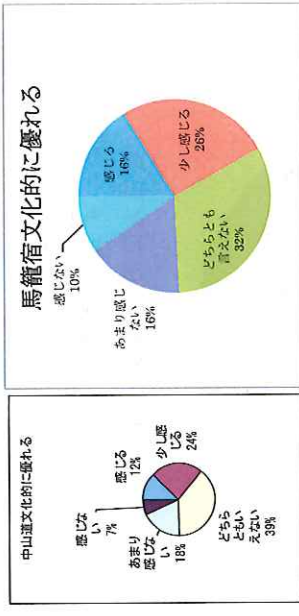
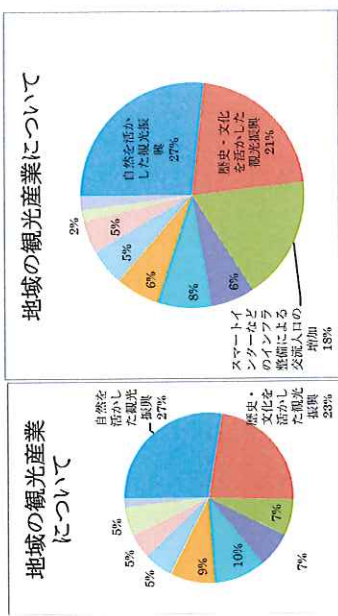
問16 地域の将来について、どのようににお考えですか。〔〇は1つ〕

1. もっと中山道の歴史や伝統の感じられる地域にする
2. 市の観光の拠点となるような整備を図る
3. 他の中山道宿場と連携をして活性化をはかる
4. 住環境を整備し、住みよい住宅地域にする
5. その他（ ）



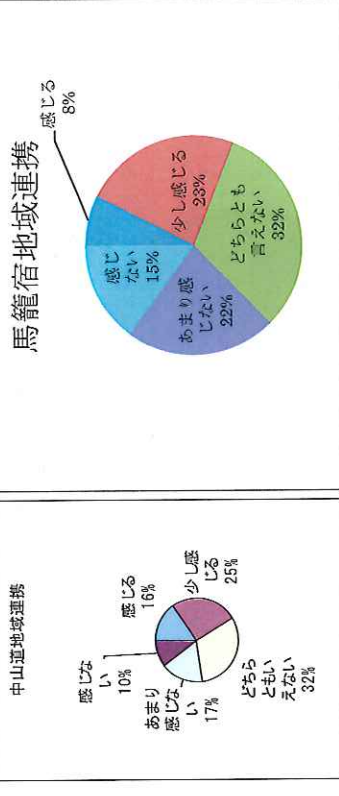
問2.5. あなたは、地域の観光振興のために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思われますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

自然を活かした観光振興	
歴史・文化を活かした観光振興	
スマートインターなどのインフラ整備による交通人口の増加	
観光農園など農業と連携した体験型観光の創出	
インターネットやホームページなどを活用した誘客対策	
観光開発は自然環境などの悪化につながりかねないのでこれ以上すすめるべきではない	
旅行会社などタイアップ(協力・提携)した積極的な誘客対策	
現在の観光振興のままでよい	
民間の観光関連企業等も誘致した大規模な観光開発	
外国人観光客を誘致し国際交流を促進するための各種施策	
その他()	



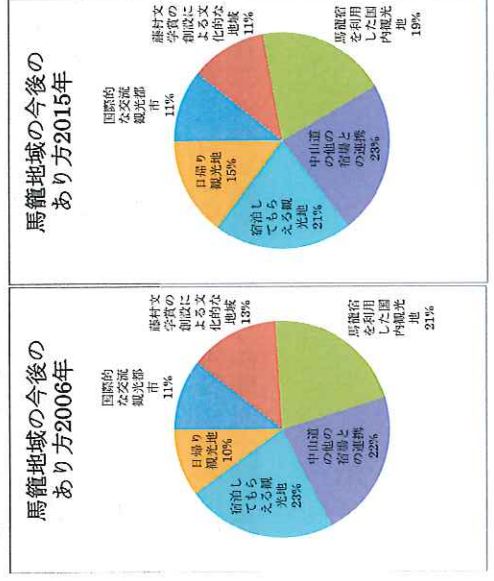
問2.6. あなたは、「中山道馬籠宿」に対して次のことを感じますか。

地域と連携している	感じる	2	3	4	あまり感じない
文化的に優れている	感じる	2	3	4	感じる
積極的な他の地域との連携の必要性	感じる	2	3	4	感じる



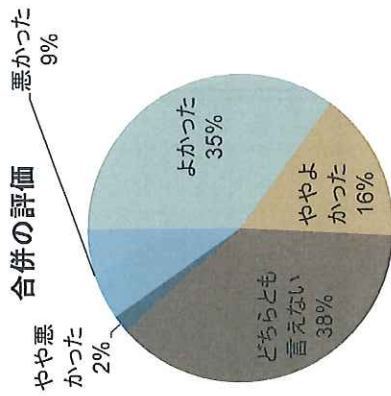
問3.0 馬籠地域の今後のあり方について、以下に賛同できるものがありましたらご記入ください。〔複数回答可〕

1. 国際的な交流観光都市
2. 藤村文学賞の創設による文化的な地域
3. 馬籠宿を利用した国内観光地
4. 中山道の他の宿場との連携
5. 宿泊してもらえぬ観光地
6. 日帰り観光地



問33 この10年を総合的に振り返り中津川市に合併してよかったですか？

- 1. よかった
- 2. ややよかった
- 3. どちらとも言えない
- 4. やや悪かった
- 5. 悪かった



問35 合併して悪くなった点

- 一方で中津川に合併して悪くなった点も指摘されている
- 税金が増えたことや、行政との距離感、住民サービスなどへの不満が大きいようである
- 特に地域に密着した行政サービスへの不満に9意見が出されている
- また、人口が減少している中様々な役職が増えたことによるコミュニティを維持する負担を感じている意見も見られた

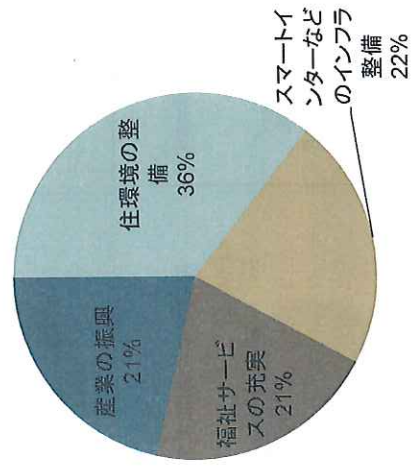
問34 合併してよかったと思う点

- 生活上の利便性が向上したという意見が大多数であった
- 病院や救急車、消防車が早く来てくれて、市役所や免許更新などが便利になった、教育の選択肢が増えたことなど
- 生活に密接に関連する様々な点で利便性の向上したことがわかる

問36 2006年のアンケートでは定住人口の増加が課題でした。この地域の人口を維持するために何が必要だと考えますか？

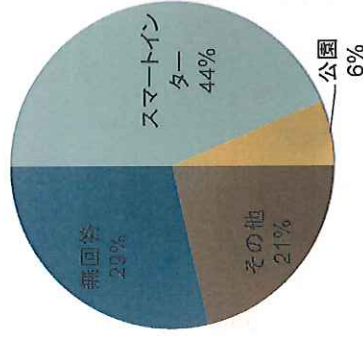
- 1. 住環境の整備
- 2. スマートインターなどのインフラ整備
- 3. 福祉サービスの充実
- 4. 産業の振興

定住人口の増加のために



問15 地域で不足している施設や必要であると思われる整備

地域で不足している施設や必要であると思われる整備



地域活性化の複雑性

- ・2006年住民アンケートで明らかにになっていることは、馬籠地域の特性として観光と市民生活をどう融合していくかが課題である
- ・価値観が違う住民同士が地域づくりに関わる中での対立は必然である
- ・ではこのアンケート結果からどのような政策、地域づくりに結びつけることができるだろうか

問21(b) 将来の馬籠を考えた場合の幼少中学校のあり方について

- | | |
|-------------------|-----|
| 幼少は馬籠にあったほうがいい | 5意見 |
| 中学は部活動などの理由から | |
| 落合との統合も考えるべき | 6意見 |
| 統廃合にならないように、若者定住に | |
| もっと努力すべき | 5意見 |
| 今の現状から考えると統合もやむなし | 8意見 |

地域に入るといふ事

- ・数年間に渡って馬籠地域と関わらせていただいた中で、地域に入るといふ事の難しさを痛感する
- ・企業や市役所などの組織とは異なり、仕事と割り切る事も難しく、建前だけではなかなか信用してくれない
- ・いかに地域の人と汗を流すか、一緒に考え行動を共にするかを地域の人たちは見ている
- ・その上で、政策的な提案やアドバイスを聞いてくれるようになる

仕事として市民として

- ・政策的な議論は地域の中でいきなりやっても意味がない
- ・良き市民として地域にとけ込む事が必要
- ・その地域に継続して関わる事
- ・政策決定の優先順位の付け方などを明確に説明できること
- ・アンケート結果の表層だけでなく裏側にある住民の本音を読み取る必要がある

このアンケート結果から 政策を立案してみよう

地域で必要とされる人材の提言

- ・地域のコーディネーターとしての役割を担える人材の育成
 - ・地域づくり協力隊の人選、教育も重要
 - ・各地域の地域づくり協議会などにそれぞれ参加してみるのもいいかもしれません
- ・政策決定の優先順位とその理由を明確に説明できるスキルの獲得
 - ・意思決定のスキル
 - ・決定した経緯を説明し、広報するスキル